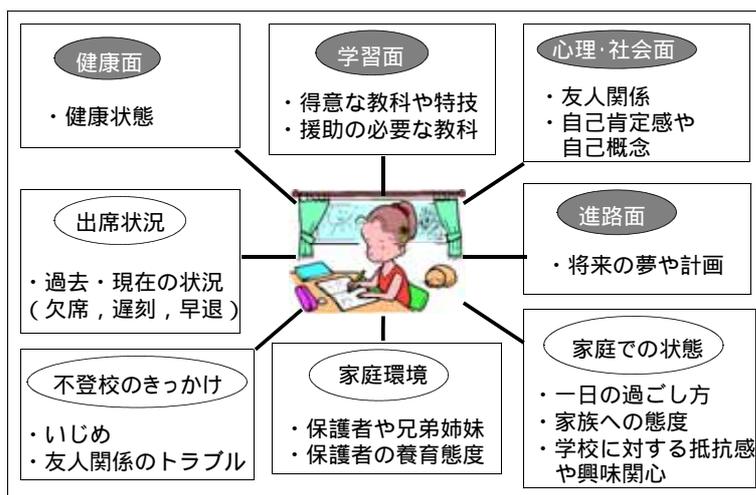


2 保健室等登校児童生徒の状態やニーズ，発達特性に応じたきめ細やかな対応

課題1の保健室等登校児童生徒の状態やニーズ，発達特性に応じたきめ細やか対応をするためには，それぞれの児童生徒について多面的，客観的な理解を心掛け，教師間の情報交換や家庭との緊密な連携によって個別理解を深める必要がある。

(1) 個別理解を深めるための情報収集の主な観点

個別理解を深めるための情報収集の主な観点を図13に示す。なお，具体的な項目については一部を記載している。ここに示した



● 筑波大学 石隈利紀教授らの視点

図13 個別理解を深めるための情報収集の主な観点

一部を記載している。ここに示した「学習面」，「心理・社会面」，「進路面」，「健康面」という観点は，筑波大学の石隈利紀教授ら（2003）が示したものである。これらに「不登校のきっかけ」，「家庭環境」，「家庭での状態」，「出席状況」などの観点を加えることで，より多面的な情報収集が可能となり，保健室等登校児童生徒の状態やニーズを的確に把握できるようになる。

(2) 発達特性

ア 小学校

小学校の低学年では，例えば，母子分離不安が保健室等登校の児童にみられることがある。母子関係が密着しすぎることによって，小学校に入学しても母親との分離に対する不安が残り，登校をしぶるケースがみられるのである。また，自分の気持ちを相手に伝えることができなかつたり，集団の中に入れなかつたりするなど，ソーシャルスキルが身に付いていない児童もみられる。これらの児童に対しては，保健室等での個別対応によって対応する教職員との信頼関係が築かれたら，次第に人間関係を広げるようにすることが大事である。状況をみて，友達を保健室等に遊びに行かせ，対人的な抵抗感を少なくするなどの対応が必要である。

更に段階が進んだら，保健室等で給食を一緒に食べたり，保健室等から活動場所を廊下や他の部屋にも広げたりして，より多くの教職員や児童と触れ合うことができるようにすることが大切である。

母子分離不安傾向がある児童の場合は，母親にしばらくは登校を一緒にしてもらい，不安感がなくなるまでは母親の協力を得て，段階的に母子を離していきながら，学級の受入れ体制を整えて学級での居場所を確保し，構成的グループエンカウンター等の活動を通して，人間関係を深めるように配慮することが大切である。

イ 中学校

中学校では，心身の発達のな変化が最も著しい時期であるため，心理的に不安定になりやすい。現実と理想のずれによる否定的な自己概念も生じやすく，友人関係のもつれなどがきつ

けとなったり,他人の視線が気になったりして,集団の中での活動ができなくなる生徒がいる。

保健室等登校を始めても,教室内での学習が長い間できていないため,学習に対する不安が高い。さらに,義務教育を終了して進路決定をしなければならぬ節目を迎えるだけに,教室復帰への焦りがかえって,保健室等登校を長引かせることにつながることもある。したがって,保健室等登校の生徒について詳細な情報を収集し,適切なアセスメントを行うことが,よりの確な対応方針を決定するために必要である。

#### ウ 高等学校

高等学校では,生徒本人の学習に対する意欲が重要である。学校には通いたいが,心理的なストレスや対人的な不安のために教室での学習ができない生徒があり,これまで以上に保健室等登校の生徒に対する理解が必要になってくる。

自己概念も安定し,自我同一性(アイデンティティー)を確立し始める時期であるので,自己認識と将来への展望を検討させ,自己実現に向けた進路指導が必要になってくる。インターンシップを活用した様々な体験学習や家業の手伝いなどを通して,働くことのイメージを形成することも大切である。また,進路変更をする生徒に対しては,具体的な転・編入学や就職についての案内,大学入学検定制度の紹介など,適切に対応することが大切である。

### (3) 個別理解に基づいたチームによる対応計画作成の手順と具体的な方法

保健室等登校児童生徒への対応計画作成に当たっては,これらの観点で収集した情報をどのように整理していけばよいか,表1にその手順と具体的な方法を示している。各学校では,この手順を参考として自校化を図ることが大事である。

表1 個別理解に基づいたチームによる対応計画作成の手順と具体的な方法

手 順	具 体 的 な 方 法
保健室等登校 の事実とそれま での経過の整理	不登校の前兆段階であるのか,再登校段階であるのかなど保健室等登校を始める前の状況,保健室等登校を始めたきっかけ,保健室等での様子,教育相談での話などを養護教諭や担任等が整理する。
周辺の状況の 把握と整理	保健室等登校をしている児童生徒の家庭環境として,保護者や兄弟姉妹の状況,前学年,前学校での状況,障害や学習,友人関係,親の養育態度など保健室等児童生徒の背景にある情報を担任が整理する。
児童・生徒理 解	自己肯定感,自尊感情など自己概念に関する分析や「保健室等登校の事実とそれまでの経過の整理」,「周辺の状況の把握と整理」を総合し,サポートチーム <sup>(注5)</sup> 全体で児童生徒理解を深める。保健室等登校の児童生徒は,対人的なストレスを感じやすく,自分に対する肯定的な評価が低いという特徴がみられることが多い。
指導・援助の 方針の決定	サポートチームでは,上記 ~ の過程で提供された情報を整理して個別理解を深め,サポートチームとしての指導・援助の方針を決定する。コーディネーター <sup>(注6)</sup> 的役割の教職員は具体的な方針を提案し,サポートチーム内での役割分担を明確にする。そして,決定した指導・援助の方針を全教職員で共通理解する必要がある。

(注5) サポートチーム: 学校内で生じる様々な問題を解決するために,担任や生徒指導主任,養護教諭,心の教室相談員などが協力して援助するチームのこと

(注6) コーディネーター: チームのリーダーとして会議の運営や連絡調整,情報収集,対応方針の提案などをする役割